



医学部を目指す高校生や受験生の親御さんに向けた特別号を作りました。私たち民医連がどのように医学生、医師として成長してほしいと思っているか、そのための研修や奨学金制度の紹介をさせていただきます。また、高校生の企画や医学生への活動を通して親御さんに理解していただけるような紙面としました。QRコードでアンケートに答えていただいた方に抽選で5名様にオリジナル QUO カード 1,000 円分をプレゼント。



民医連紹介

私たちはお金のあるなしなどの理由で差別されることのない「無差別平等」の医療を目指しています。

戦後、医療に恵まれない人々の要求に応えようと、地域住民と医療従事者が手をたずさえ、民主的な医療機関が各地に誕生。その中で1953年に全日本民主医療機関連合会(民医連)が結成しました。以後、地域の人々に支えられ、地域に根ざした医療機関として活動しています。

加盟事業所は、全国47都道府県に1,700カ所を超え、約62,000人の職員と、医療生活協同組合員や友の会会員約360万人の方々が、保健・医

療・福祉の総合的な活動、安心して住み続けられるまちづくり運動を進めています。

また、民医連の病院・診療所は無料低額診療に積極的に取り組んでおり、さらに入院施設には差額ベッド料がありません。さらに、介護・福祉分野でも様々な団体、個人と連携協力して活発に活動を行っています。

今、日本国内では経済的格差の拡大によって貧困層が急速に増大した結果、必要な医療や介護を受けられない人たちが増えてきています。「だれもが安心して必要な医療や介護が受けられるような社会」の実現が、私たちの願いです。

目の前にいる患者さんについて、疾患だけでなく、歩んできた人生や今の

病院	142	有床診療所	14
無床診療所	480	歯科診療所	82
薬局	352	訪問看護ステーション	248
在宅介護支援センター	25	看護・介護学校	8
薬剤・診療材料センター	34	検査センター	2
老人保健施設	52	特別養護老人ホーム	37
研究所	2	鍼灸所	3
ヘルパーステーション	55	グループホーム	23
ケアハウス	11	在宅福祉総合センター	211
その他	13	合計	1,794

生活、これからの人生をも含めて「ひとりの人」として診る。そして、そのために様々な職種の力を合わせて患者さんにかかわっていく。地域医療の現場では今そのような医師が強く求められています。私たちは、地域や患者さんを取り巻く状況をとらえて患者さん

の立場に立った医療を担うことのできる医師を養成しています。

また、将来ともに民医連で働く意志のある方を対象にした奨学金制度を設けています。

全日本民医連ホームページ▶



民医連の病院での研修について

民医連には基幹型臨床研修指定病院が48病院あり、2018年度は全国で173人の初期臨床研修医を迎えました。全国・各地方単位で研修医同士が学び交流する機会もあるため、横のつながりも深められます。また、研修医はそれぞれの医療機関で常勤採用され、しっかりした福利厚生の中で安心して働くことができます。

さらに、大病院に比べて研修医の数も多すぎないため、それぞれの個性に対応したオーダーメイド研修ができることも魅力です。民医連の初期研修は、患者さんに寄り添える医師を育てる研修

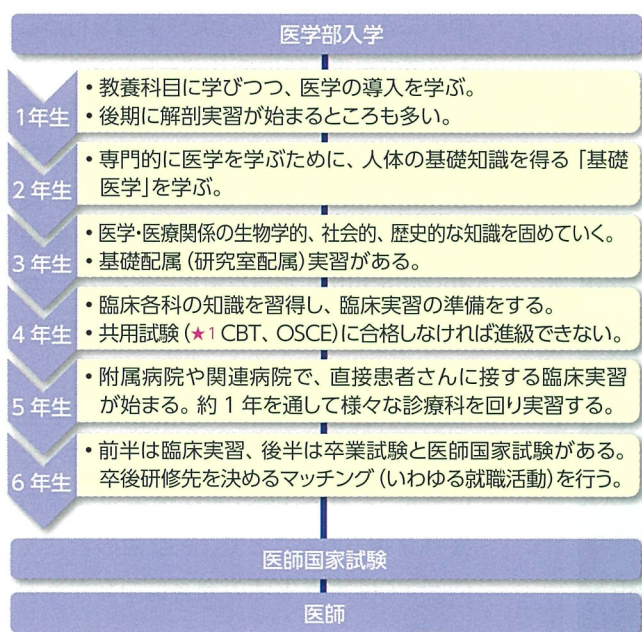
です。医師として病気だけを診るのではなく、患者さんの生活背景まで配慮した「全人的」な医療を行うための視点を育みます。また、総合性を重視した研修を行うのも特長です。将来専門とする分野に関わらず、一般的な診療に対して適切に対応できる「プライマリ・ケア」の基本的な診療能力を身に付けます。

こうした研修を、第三者評価を受けることなどで、より標準的で質の高い研修を追求しています。



【医師になるまで】

※大学によってカリキュラムに違いがあります



★1 CBTとOSCE

・CBTとは?
知識と問題解決能力を評価するコンピュータを用いた筆記試験。
・OSCEとは?
態度と診察技能を評価する実技試験

★2 新専門医制度

第三者機関(日本専門医機構)による評価認定制度。
⇒詳しくは、「Medi-Wing69号」をご覧ください。

初期臨床研修
(2年間):研修医

専門臨床研修
(3年~5年間):専攻医

※2018年4月より
★2 新専門医制度開始

専門医

親御さんからの声

原口 恭子さん

久留米大学医学部2年
医学生の母

私たちと民医連の出会いは入学式の日に手渡された奨学金説明会のチラシでした。

その後、奨学生となって、民医連の活動に参加するようになり、様々な人たちとの出会いを通して本人の成長の機会になっていると思います。特に大きかったのは病気を治すことだけではなく、社会の中における医療の在り方についての視点をもったことです。中学から私立に通っていたので、私立の学力重視という環境の中で、人権意識というところで視野が狭くなっているように感じていました。しかし、月1回のサポートセンターでの学習会で、生活に困っている方たちの医療やハンディキャップを持つ人への医療だとか、ただお医者さんになるというだけではなく、医療そのものの社会にとっての在り方に出会う機会になり、抜け落ちていたところを補っていただいています。民医連の活動に参加する中で、学校では勉強できないことを教えてもらっていると感じています。また、同じ奨学生の先輩たちからも学び方や感じ方を教えて貰っているようです。以前は親主導で新聞記事やニュースについて話していましたが、いまでは子どもから聞く情報が増えているのも民医連の活動に参加していることが大きいのではないかと思います。

奨学金をもらう・もらわないということだけではなく、お金ではなく、学びの魅力が民医連にはあるので、そこを広げて、未来を切り開いていく子どもたちがつながって共に学びあっていただけたらいいと思います。

民医連の奨学金について

奨学生から

長崎大学医学部 4年 天笠 諒

民 医連綱領と医療活動に共感し、ともに民医連で働く意志のある方を対象に奨学金制度を設けています。対象は医学部医学科在学中の学生または医学部医学科への進学が決定している方です。

私たちは地域や患者さんを取り巻く状況をとらえ、患者さんの立場に立った医療を担うことのできる医師養成を行っています。

医学部入学後は、各大学キャンパス付近にある医学生サポートセンターを中心に医学生同士の交流や学習ができます。サポートセンターでは奨学生を中心に「奨学生活動」を盛んに行なわれており、奨学生以外の学生も参加できます。新歓企画・奨学生ミーティング・各種セミナーや大学の昼休み時間を利用したランチミーティングなどなど、都道府県毎

に多彩な企画を行っています。さらに全国から200名規模の医学生が集まる一大イベント「全国医学生のつどい」を年3回行っています。

医学生の皆さんは、これらさまざまな学習や交流の機会を得ることで大学生活を充実させて、自身の医療観を確立し将来の医師像を考えるきっかけになり得ます。

奨学金の金額や審査方法、返済免除規定、併用できる奨学金等は各都道府県によって違いますので、ぜひお気軽にお問い合わせください。



民医連奨学金制度の紹介



医学部合格が分かったあの日、私は以前より聞いていた民医連の奨学生制度説明会に参加した。ただその時に聞いた民医連の説明は、ほとんど覚えていない。気付けば民医連の奨学生になっていた私は、多くの貴重な経験を通して民医連のことが少し分かってきた。その1つは、民医連は「困っている人を助けたい」組織ということだ。

患者の訴えを聴き、診断し、治療方針を決定する。医学的に物事を解決することは、医師の仕事の1つだ。しかし、医学だけでは根本的な解決にならない。その人の生活環境や社会構造が健康に大きく影響するからだ。私はそれを、医学生をつどいや奨学生合宿などの奨学生活動を通して学んできた。

「医師の仕事は生の質を高めること。死を遅らせることじゃない」映画パッチアダムスより。民医連は疾患だけをみるのではなく、地域社会まで視野を広げ、「患者に寄り添う医師」を目指す医学生を応援してくれる。そんな民医連の奨学生になって良かった、と思う



高校生企画・医学生活動について

民 医連では年間を通じて高校生、医学生に向け様々な企画を行っています。目の前にいる患者さんを疾患だけでなく、歩んできた人生も今の生活もこれからの人生を含めて「ひとりの人」として診る。そしてそのために色んな職種のプロフェッショナルと力を合わせて患者さんにかかわっていく。今、そんな医師が地域医療の現場

で求められています。

私たちはお金のあるなしなどの理由で差別されることのない「無差別平等」の医療を目指しています。そのため、医学生の皆さんには私たちの行う企画でぜひ大いに学び、医療知識だけに留まらず、私たちの生活を取り巻くさまざまな社会問題に目を向け、学習してほしいと思います。

3月～4月には高校生3年生、医学科新入生を対象とした企画を行っています。医学科受験後に行われる「受験お疲れ様会（合格おめでとう会）」では、入学前に同じ大学の同級生・先輩と交流ができ、つながりが持てる楽しい企画となっております。また「入学前実習」などでは入学前に実際の医療現場を見ることでモチベーションを高めることができます。

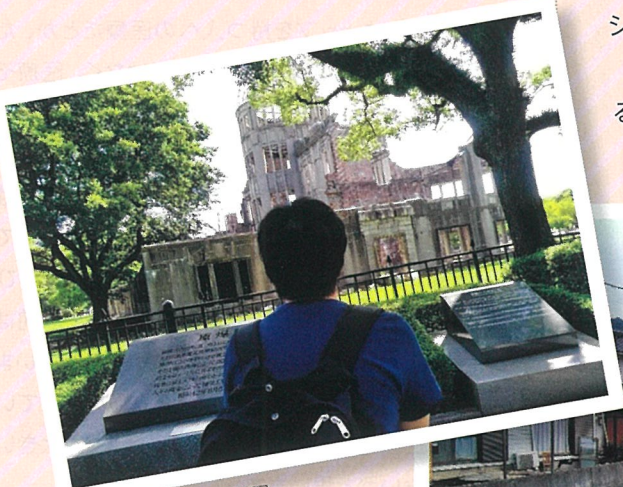
入学後は、各大学キャンパス付近にある医学生のサポートセンター（「分室」「医



奨学生会議

学生センター」など呼び名はさまざま）を中心に医学生同士の交流や学習を行うことができます。各地のサポートセンターでは奨学生を中心に「奨学生活動」が盛んに行われており、この活動には奨学生以外にも参加することができます。新歓企画、奨学生ミーティング、夏合宿、大学の昼休み時間を利用したランチミーティング、などなど都道府県ごとで多彩な企画を行っています。

さらに全国から200名規模の医学生が集まる「全国医学生のつどい」も行っています。これらさまざまな学習や交流の機会が得られることで、医学生の皆さんにとっては大学生活の充実につながるでしょう。



奨学生の原爆平和学習



民医連の災害支援に参加